

■ 沢辺琢磨 日本ハリストス正教会初の正教徒で最初の日本人司祭。坂本龍馬の従兄。

さわべたくま

高島砲術・・・1834 =

土佐国潮江村で、郷土山本代七の長男に生まれる。幼名は数馬。

父代七の弟八平は同じ土佐郷土の坂本家に婿養子として入り坂本直足と改名、その次男が坂本龍馬。また琢磨の母は武市瑞山(半平太)の妻富子の叔母。

大塩平八郎乱1837 = 3歳：

順天堂始・・・1843 = 9歳：

阿部正弘首座1845 = 11歳：

すでに、長崎海軍伝習所のオランダ人教師から強く影響を受けていた勝海舟は、もっともキリスト教に近い人物といわれるが、讃美歌を翻訳した最初の人物であり、江戸城の無血開城はもちろん、維新後の、日本の内外の戦には常に反対し続ける平和主義者であったことから、間違いのないであろう。

万次郎帰国・1852 = 18歳：

ペリー来航・1853 = 19歳：

武術に優れ、江戸に出て三大道場の一つで、親戚筋の武市半平太が塾監を務めていた、桃井春蔵による鏡心明智流の士学館に入って、その腕を一層磨き、師範代を務めるまでになるが、

安政大地震・1855 = 21歳：

この年、ロシアが箱館に領事館を設置。領事の意向で、聖堂が設けられ、神父も呼ばれる。

松下村塾・・・1856 = 22歳：

この年、龍馬が剣術修行のため、江戸に上り、千葉周作の弟が開く北辰一刀流の千葉道場に入門、

蕃書調所・・・1857 = 23歳：

ある晩、酒を飲んでの帰りに拾った金時計を、一緒にいた友人と共謀し時計屋に売ったことが発覚、苦渋のなか切腹を命じる武市半平太に、命の尊さを理由に龍馬が異を唱え、彼らの助けて江戸を脱出。東北地方を彷徨後、新潟に至る。(のちに日本の近代化に貢献する)前島密から、外国船の多い箱館こそ未来があると勧められ、ともに箱館に渡ったのち、長崎に向かう前島と別れ、思索していたところ、宿泊していた宿屋で強盗事件が起きたのを簡単に取り押さえたことから、宿屋の主人が、剣術師範を要請され、箱館神明宮の境内に剣道場まで建設してくれ、その宮司から、娘の婿に迎えられ、神主沢辺琢磨となる(のち8代宮司)。

安政の大獄・1859 = 25歳：

この年、横浜・長崎とともに、箱館が正式に開港。_ロシア領事館からの要請で、剣道指南に入り始め、

桜田門外変・1860 = 26歳：

遣欧使節・・・1861 = 27歳：

この年、在箱館領事館からの要請で、ロシア正教会から初の宣教師ニコライが派遣される。

生麦事件・・・1862 = 28歳：

この年、龍馬は海舟と運命的の出会いをし、'憎しみからは何も生まれない'という教えに開眼したという。
凝り固まっていた攘夷の思想から、ニコライを斬る覚悟で訪問、逆に説得され、日本を救うためには正教を学ぼうと、以後度々、ニコライを訪れて学ぼうと、確信するに至る。

禁門の変・・・1864 = 30歳：

海外へ密航すべく箱館を訪れた安中藩士新島七五三太(のちの襄)が、最初に出会った長岡藩士菅沼精一郎からニコライを紹介され、やがて紹介された琢磨も意気投合、手配して、密航を実現させる。

大政奉還・・・1867 = 33歳：

神官の養子ながら、キリスト教を説くようになったことから、身に危険が及ぶようになるなか、医師酒井篤礼を1年以上説得、ついにニコライを訪ねさせたりし、
この年、龍馬が暗殺される少し前に、{海援隊}から、龍馬が信頼しキリシタンの過去を持つ長岡謙吉の手によって、「閑愁録・護教」が出版されるが、見かけ上、キリシタンがはびこることに警鐘を鳴らしながら、実は、擁護しているという不思議な文になっており、龍馬がキリスト教に親近感を有していたらしく、実際、藩士の友人に、維新のためにはキリスト教を利用したらどうかという話をしていたという。西郷隆盛の"敬天愛人"の語も、キリスト教そのものともいえるように、聖書の影響はかなりあったようだ。

明治維新・・・1868 = 34歳：

キリスト教禁制下、意を決して、酒井や浦野太蔵とともに、*秘密裡にニコライより受洗、日本ハリストス正教会の最初の信者になり、洗礼名パウロを与えられる。

戊辰戦争終・1869 = 35歳：

この年、ニコライは日本に伝道組織を整備すべく、一時帰国。酒井、浦野が箱館を去り、自らは江戸を目指すもかなわず、箱館にとどまる。
受洗後もしばらくの間、神明社宮司の座に留まり、祭祀の時には祝詞を漢語訳聖書の聖句に置き換えてカムフラージュをしたりもしていたが、やがてハリストス正教に改宗したことを公言し神明社を去る。一家への迫害は非常に厳しくなり、度々捕縛・投獄されるも揺るがず、意志の強さが警官を感心させるも、生活は困窮を極め、精神的に参った妻が自宅に放火をする事件も起きるが、

初の日刊新聞1870 = 36歳：

この年、ニコライは日本における伝道団体の首長に任じられる。

廃藩置県・・・1871 = 37歳：

この年、海舟が「耶蘇教黙許意見」を公にしたことから、

明治6年政変1873 = 39歳：

キリシタン禁制が解かれることになると、自由の身となり以前にも増して伝道に力を入れる。

初の民間工場1875 = 41歳：

新島襄が京都で同志社を設立した年、ニコライが東京で第1回の公会議を招集、選挙の結果、*日本最初の正教会司祭となり、以後、各地の教会で聖体礼儀を司務、授洗によって、多くのハリストス教徒を育て、東京復活大聖堂(通称：ニコライ堂)建設にあたっては、建設資金を困窮する信者らの生活費に回すべきだとして、師のニコライと対立したこともあったが、後に和解。

明治14年政変1881 = 47歳：

明治14年の政変後、自由民権運動への弾圧が強まるなか、

岩倉具視没・1883 = 49歳：

この年、何とかその精神を表現すべく、坂崎紫瀾という高知の新聞記者が、初の龍馬伝「汗血千里駒」を出版、大評判となり、忘れられていた龍馬の存在を復活させたが、キリスト教徒でもあった紫瀾は、龍馬の思いを生き抜いた人物として、従兄弟の山本琢磨を詳しく取り上げている。

秩父事件・・・1884 = 50歳：

_ニコライ堂が起工、

初の対等条約1888 = 54歳：

帝国憲法発布1889 = 55歳：

建設途中のこの頃から、尖塔が皇居を見下ろす形になり不敬であると建設を妨害しようとする右翼にも対応、剣道家だった琢磨の姿が現れると、右翼はいつの間にか姿を消していたとも伝えらる。

足尾鉾毒始・1891 = 57歳：

_ニコライ堂が竣工。

日清戦争始・1894 = 60歳：

八幡製鉄始・1897 = 63歳：

日露戦争終・1905 = 71歳：

満鉄発足・・・1906 = 72歳：

_一貫して神に奉獻する道を歩み、福音宣教に生涯を捧げ、

明治天皇没・1912 = 78歳：

*ニコライ大主教が永眠すると、

大正政変・・・1913 = 79歳：

*師の後を追うように、没した。ニコライ堂で盛大に埋葬式が挙行され、青山霊園に埋葬された。